

# 千葉県言語聴覚士会ニュース

NO.25 2007年12月14日

## 目 次

|              |   |        |    |
|--------------|---|--------|----|
| ミニタウンミーティング  | 1 | 施設紹介   | 10 |
| 都道府県士会協議会    | 2 | 臨床こぼれ話 | 11 |
| 学術局          | 3 | 理事会等報告 | 12 |
| 私の地域勉強会      | 7 | 事務局    | 14 |
| コラム「法人化を考える」 | 7 | 求人情報   | 16 |
| 委員会・作業部会     | 9 |        |    |

## ミニタウンミーティングが開催されました

11月4日、千葉市黒砂公民館において、千葉県言語聴覚士会は千葉県健康福祉部とミニタウンミーティングを開催しました。開催までの経緯と当日の内容をご報告します。

7月26日、千葉大学医学部附属病院にてミニタウンミーティング「地域連携の会」が開催され、参加された当会会員より連絡を受けて渉外部が資料を入手しました。千葉県健康福祉部の資料『県民への包括的支援と地域再生を可能にする健康づくり・医療・福祉の連動に向けて』には、健康づくり・医療・福祉の人材として言語聴覚士の記載がありませんでした。資料全般を確認したところ、県の視点には専門職としての言語聴覚士や、さらに言語聴覚障害児・者への配慮が不足しているように懸念されました。健康福祉部に人材として言語聴覚士を含むよう申し入れを行うとともに、訪問による意見交換を希望しましたが、担当者から「ミニタウンミーティングでの意見交換を実施してほしい」との回答がありました。その後、理事会の承認を経て、11月4日に開催が決定しました。

ミニタウンミーティング参加者は20名、内訳は千葉県健康福祉部職員3名、当会会員13名、関連職2名、当事者1名、傍聴者1名です。宇野会長の挨拶に続き、健康福祉部より『健康ちば21』『県民への包括的支援と地域再生を可能にする健康づくり・医療・福祉の連動に向けて』に関する説明及び質疑応答、続いて当会より『健康・医療・福祉の現状と将来、連動の必要性について』に関する千葉県言語聴覚士会からの意見(ホームページに掲載中)が示されました。当会からは12項目の提案を行い、これに対して即答は困難であることから、県で検討していただく事になりました。

今後もタウンミーティング等を利用して、千葉県に当会の活動を知らせていただきたいと思います。開催までの準備期間が短かったにもかかわらず、無事に開催することができました。当日参加された方々及び情報の提供や配付資料作成の協力等、多くの皆様のご尽力に厚く御礼申し上げます。

千葉県言語聴覚士会からの提案骨子 (詳細はホームページに掲載中)

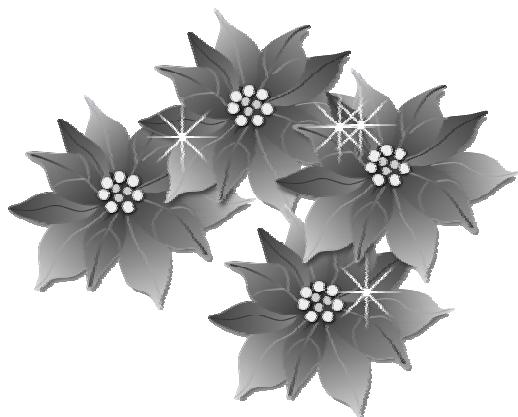
- (1) 資料「健康づくり・医療・福祉の連動に向けて」に、「言語聴覚障害児、発達障害児」と「教育機関」を位置づける。
- (2) 資料「健康づくり・医療・福祉の連動に向けて」に、「言語聴覚士」を追加。
- (3) すべての県民一人ひとりが途切れのない健康づくり・医療・介護・福祉・教育の支援を受けられるように、各市町村、または二次保健医療圏ごとの施設に偏りなく言語聴覚士を配置。

- (4) 各地に十分な施設と職員を配置して、障害児が適切な時期に必要な支援を受けられる権利の保障。  
非採算部門にも配置が可能になるような対策を。
- (5) 学校を卒業した障害児や、外傷や変性疾患などによる若年の障害者が、学校や医療機関の外で適切な支援を受けられる施設の整備。
- (6) 就労支援の対象を身体障害者手帳が取得できなかった軽度障害者、介護保険対象者まで拡大して言語聴覚障害者の雇用の支援。
- (7) 介護予防事業での言語聴覚士の積極的な活用。これらの事業に、身体障害者手帳が取得できなかった、または要支援にも認定されなかった軽度言語聴覚障害者も参加できるように。
- (8) 介護予防の「口腔機能向上」事業での言語聴覚士の積極的な活用。
- (9) 地域ごとの特性に合わせた施策作りが可能になるように、各自治体または二次保健医療圏の主たる自治体における言語聴覚士の正規職員としての雇用を促進。
- (10) 当事者団体「友の会」「親の会」への支援。
- (11) 言語聴覚障害者への情報保障の充実。ことばのバリアフリーの推進。
- (12) 県立医療保健大学に言語聴覚学科を設置。

## 第9回日本言語聴覚士協会都道府県士会協議会 報告

11月4日(日)に日本言語聴覚士協会(以下、協会)事務所において第9回日本言語聴覚士協会都道府県士会協議会が開催され、会長宇野園子が出席しました。内容は以下の通りです。

1. 協会活動の報告：8月に内閣府において開催された発達障害の支援に関するヒアリングなど。
2. 都道府県士会協議会への参加条件の検討：全国で半数以上の地方職能組織が協議会に参加できていないため、参加条件の見直しについて意見交換が行われた。これに関しては協会の都道府県士会検討ワーキンググループ及び理事会で協議を重ね、来年度の総会で決議がなされる予定。
3. 各士会から状況報告と情報交換：「言語聴覚の日」のイベントの報告や、新人の活動参加が少ない、都市部と周辺部でSTの分布に偏りがあるなどの問題が共通して挙げられた。
4. その他：保険情報の周知の仕方、特別支援教育への取り組み方法、名簿及び施設一覧の改定、STが登場するフランス映画「潜水服は蝶の夢を見る」の上映に関してなどの報告と意見交換があった。



## 学術局から

### 1. 第4回研修会のお知らせ

\* 日時：平成20年1月27日（日） 13時00分～16時40分（小児）  
13時30分～17時10分（成人）

\* 会場：千葉大学医学部附属病院 3階 講堂

\* 内容：

| 時間  | 会場   | 内容（症例検討、講演、情報交換会）   | 助言者・講師   |
|---|------|---|--|
| <小児>  |      |   |  |
| 13:00<br>～<br>15:00                             | 第3講堂 | 「病院外来での中等度難聴児の指導」<br>小張総合病院 言語聴覚士 佐藤 真紀<br><br>「通常学級に在籍する発達障害児への支援<br>より良い学校生活を目指して<br>ソ・シャルスキルのアドバイス」<br>印西市立木戸小学校 教諭 深澤 朱美  | 筑波大学特別支援教育<br>研究センター<br>言語聴覚士 庄司 和史 先生<br><br>八街市立実住小学校<br>教諭 勝田 真至 先生 |
| ～<br>16:40                                      |      | 情報交換会   |  |
| <成人>  |      |   |  |
| 13:30<br>～<br>14:30<br>～<br>15:30<br>～<br>17:10 | 第2講堂 | 「認知症のある仮性球麻痺患者に対する<br>チームアプローチ」<br>千葉中央メディカルセンター 言語聴覚士 佐野 基<br><br>「脳幹部梗塞における嚥下障害の機能評価」<br>大野中央病院 言語聴覚士 田山 明香<br><br>講演：「脳神経疾患患者の摂食・嚥下リハビリテーションの実際<br>～脳梗塞やくも膜下出血、神経難病の在宅患者様の評価の仕方やアプローチの流れ～」 | 千葉東病院<br>歯科医師 大塚 義顕 先生   |
|   |      | 情報交換会   |  |

\* 申し込み：同封の申込書に必要事項をご記入の上、FAXでお申し込みください。

### 2. 平成19年度 第3回研修会報告

平成19年11月11日（日）千葉市療育センターにて平成19年度第3回研修会を開催しました。今回は小児と成人の症例検討会等を行いました。

小児分科会は「聴覚障害児」と「音声発信困難な子ども」でした。成人分科会は「訪問リハビリ」と「失語症者」の症例検討を行いました。

参加者は59名（うち会員43名、会員外16名）でした。研修会の概要と、当日行ったアンケートの結果の一部を紹介します。

## <研修会の概要>

### 小児

#### 発表1：異なる教育環境で育つ聴覚障害児の自己に対する認識

～難聴学級通級児と聾学校在籍児を比較して～

発表者 千葉県立千葉聾学校 教諭 田原 佳子

助言者 斎藤 佐和 先生(目白大学保健医療学部言語聴覚学科 教授)

通常学級に在籍する難聴学級通級児と聾学校在籍児を対象にした研究から得られた「自己の認識に関する学習の効果」、「異なる教育環境で育つ聴覚障害児が肯定的な自己認識をもつための支援の在り方」について、ご発表いただきました。助言者からは、「特別支援教育体制への移行と聴覚障害児の療育・教育」をショートレクチャーしていただきました。

#### 発表2：音声発信困難な事例へAAC手段を使用した指導の経過について（中間報告）

発表者 のぞみ牧場学園 言語聴覚士 木下 亜紀

助言者 那須 道子 先生(八千代市児童発達支援センターことばと発達の相談室)

気管支軟化症の既往歴がある音声発信困難な知的発達障害児へサインやシンボルで作成したコミュニケーションカード(ブック)などのAAC(補助・代替コミュニケーション)にて指導し、その結果、「発信語彙数の増加」、「2語連鎖発信の一部の獲得」、「コミュニケーション機能の分化」が認められた経過を報告していただきました。助言者からは、再評価の方法や今後の指導内容につき具体的なアドバイスをいただきました。参加者から多くの質問や意見が出され、活発な意見交換ができ、このような症例に対する興味や関心の高さがうかがえました。

### 成人

#### 発表1：訪問リハビリにおけるSTの役割～軽度失語症一例をとおして～

発表者 医療法人社団 紫雲会 千葉南病院 言語聴覚士 菅原 奈津子

助言者 長谷川 啓子 先生(千葉大学医学部附属病院 言語聴覚士)

村山 尊司 先生(千葉リハビリテーションセンター 成人理学療法科 理学療法士)

退院後すぐに訪問リハビリを開始した症例について、訪問を重ねることで見えてきた問題点、目標達成に向けた本人・家族への実際のアプローチ方法などの報告がありました。助言者からは、本症例に対する具体的なアドバイスに加え、生活の中で本当の問題点を探すことの大切さや理学療法士の視点からの問題点の見方などの話がありました。

#### 発表2：脳梗塞により失文法を呈した一例

発表者 化学療法研究所附属病院 言語聴覚士 田中 敏恵

助言者 長谷川 啓子 先生(千葉大学医学部附属病院 言語聴覚士)

村山 尊司 先生(千葉リハビリテーションセンター 成人理学療法科 理学療法士)

脳梗塞の再発により失語症状を呈した症例の評価及び訓練の結果について報告がありました。助言者からは、報告者から提示された検討事項へのアドバイスや、発症間もない症例とその家族への対応の仕方などの話がありました。

## アンケート結果 回答者 28名

### <研修会に参加していかがでしたか?>

とても良かった 23人、 普通 5人、 期待していた内容と異なった 0人

### <具体的に>

#### 小児

- ・普段、知的障害児にかかわっており、なかなか聴覚障害児について学べずにいるので、今回の研修会は言語聴覚士として、関連領域を学べる機会になり、良かったです。また、AACの指導経過の発表も、AAC手段を決定した根拠など、指導するに当たっての注目する点をお聞きできて良かったです。

#### 成人

- ・助言者が理学療法士の先生だったので、理学療法サイドのことを学べたことが良かった。
- ・実際の臨床の話を聞くことができて、とても勉強になりました。
- ・2カ月前から訪問リハビリを開始し、まだ、手探りのことが多いので、参考になりました。

### <研修会の感想>

#### 小児

- ・木下先生のコミュニケーションカードを使われた報告に興味を持ちました。コミュニケーションは音声だけではないということが改めて、感じられました。コミュニケーションブックが参考になりました。
- ・言語から見ると聴覚だけではないと思うが、いろいろな立場の方が、参加されているので、情報交換の意味で、各方面からの発表はとても意味あるものだと思う。
- ・聴覚と知的障害と興味のある分野を聞くことができ、良かったです。幼児期から学齢期へと、注意すべき点も変わってくるので、広い視野で考えていかなければないと実感しました。
- ・普段、あまり出席することがない他職種の勉強会に参加させて頂き、参考になりました。ありがとうございました。

#### 成人

- ・発表させて頂く機会を得て、大変勉強になりました。人に伝えるためには、どうすればよいか。臨床を細かく振り返って、問題点を見いだしていくことなど、じっくりと考えることができました。お二人の先生から助言をいただき、今後の臨床に役立たせて頂きます。
- ・訪問リハビリに興味がありますが、実際に何をするか、全く想像できずにいたので、具体的な話を伺えて参考になりました。
- ・家族指導は日頃からどのように伝えれば、上手く伝わるのか等悩むことがあります、今回の研修会で、ヒントが得られました。ありがとうございました。
- ・訪問リハビリの重要性を再考できました。訪問リハについて今後の活動の参考になりました。

#### 情報交換会

- ・他職種でしたので、参加して良いものやら、分からずじまいでした。(作業療法士)
- ・自由に交換できたこと、同じ立場の先生方もいらっしゃることがわかり、参加できて良かったです。

### <今後の研修会・県士会についての意見>

- ・また、機会があれば、お願いします。(作業療法士)
- ・他職種との連携についてや老健での言語リハの状況について聞きたいです。
- ・今後、県士会でも新人プログラムのようなものがあるとうれしいです。



## 学術局より <研修会を終えて>

今回は初めて一日で小児と成人の症例検討などを試みました。理学療法士や作業療法士、教員などの他職種の参加も多かった研修会でした。

小児では、聴覚障害児の環境による自己認知の問題と音声発信困難な症例へのA A Cを活用した対応に関して提案され、活発な意見交換がなされました。聴覚障害の小児から小学校への連携の大切さやA A Cの有効な活用や齋藤佐和先生の聴覚障害児への対応に関するショートレクチャーと学ぶべきことの多かった研修会でした。

成人では、訪問リハビリへの対応に関して関心も高く、参考になりました。また、助言者との発表者のやりとりを通して症例の詳細な分析の手法も学べました。

皆様の職場での明日からの取り組みの一助になれるよう願っております。



## 3. 次年度研修会の症例発表者募集

次年度の研修会での症例発表者を募集します。日頃の臨床で悩んでいる症例などありましたら、ぜひ発表してください。皆様の積極的な提案をお待ちしています。申し込みや問い合わせはホームページ、事務所へのF A X、郵送でお知らせください。

## 4. 研修会ビデオの貸し出しと資料の送付

### 1) ビデオの貸し出し

これまでに実施した研修会のビデオを貸し出しています。下記の要領でお申し込みください。

方 法：返信用封筒（B 5またはA 4サイズ）に住所、氏名を書き、切手（ビデオ1本270円分、2本390円分）を貼り、下記宛にお送りください。

宛 先：〒272-8516 千葉県市川市国府台1-7-1

国立精神・神経センター国府台病院 四方田 博英

貸し出しビデオ：対象となる研修会の詳細は、県士会ホームページをご覧ください。

最近の研修会ビデオは「摂食・嚥下リハビリテーションの実際」、「S Tの語る障害者自立支援法の現在」、「小児と成人の高次脳機能障害支援モデル事業から学ぶこと～理論と実践から～」、「シンポジウム 軽度発達障害児への支援」、「きこえの障害の早期発見のために」、「頸部聴診法による摂食・嚥下の診断」です。

貸出期間：1ヶ月

\* 貸し出しについての注意\*

ビデオの販売はしません。ダビングは禁止です。ビデオを紛失、破損した場合はご連絡ください。ビデオテープの代金を弁償していただきます。

### 2) 資料の送付

希望者に研修会資料を配布しています。返信用封筒（A 4サイズ）に住所、氏名を書き、切手（200円分）を貼りお送りください。宛先はビデオ貸し出しと同様です。対象となる研修会についての詳細は、県士会ホームページをご覧ください。

なお、最近の資料は、「学習障害児への指導再考」、「摂食・嚥下リハビリテーションの実際」、「S Tが語る障害者自立支援法の現在」、「小児と成人の高次脳機能障害支援モデル事業から学ぶこと～理論と実践から～」、「シンポジウム 軽度発達障害児への支援」、「きこえの障害の早期発見のために」です。

## 5. 「地域の勉強会」での症例検討会に参加しませんか？

会員の皆様のご協力により、各地域で勉強会が開催されています。同封の「小児多職種合同勉強会」及びホームページの「地域勉強会」をご参照の上、ご参加ください。また、ホームページではこの情報について随時更新を行っていますので、ぜひご利用ください。

小児の分野では、これまで、病院勤務の言語聴覚士、学校現場の言語聴覚士、養護教員など、立場が違ってしまうと共通の子どもの成長に携わっていても、なかなかお互いにコミュニケーションがとれないという声がたくさん寄せられていました。そこで当会の特別支援教育委員会を中心として、「小児多職種合同勉強会」を県内5地域に発足させ、さらに発展させようとしています。一覧表を同封いたしますので、ぜひご活用ください。

### 特集：私の地域勉強会

県内各地で行われている勉強会を順番に紹介しています。今回は、「市原地域勉強会」です。

#### 市原地域『第3木7勉強会』

市原地域の勉強会は、『第3木7勉強会』という名の通り、毎月第3木曜日の19時から（最近は19時30分から）千葉労災病院リハビリ科ADL室で行っています。成人の高次脳機能障害や摂食・嚥下障害、認知症などの症例検討が主なテーマとなっています。

市原地域の勉強会の特徴は、参加者がSTに限らず、OT、PT、ケアマネージャー、介護職の方など、多職種にわたっていることです。STだけの視点にとらわれず、多方面からの視点による意見には、新しい発見があり、症例への対応法や支援の仕方など、活発な情報交換の場となっています。また、臨床経験の豊富なSTも参加しているので、新人のSTや一人職場のSTも気軽に相談でき、とても勉強になります。

今後はこの勉強会を一般に公開し、更に多くの方々に参加していただきたいと思っております。

夕食を食べながらの症例検討は、とても和やかな雰囲気で行われています（ちなみに夕食は持参ですのであしからず…）。

市外からの参加者も大歓迎です！皆さんのご参加をお待ちしております



東明会 下総病院 高澤 淳也

### コラム「法人化を考える」

#### 法人化検討で見つけたこと

法人化の検討という課題のもと、組織検討委員会は他の医療関連職種の職能団体の組織がどのようにデザインされているのかということを調査してみました。理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、などの職能団体にはある共通点があることがわかりました。

共通点 県士会の会員は同時に中央組織の会員である。

共通点 加入申請は一回で、認められると県士会、中央組織に同時加入となる。

共通点 会費は年一回のみ。

納入先が県士会というところもあれば、中央組織に納入するということもあるが、原則として一つの会費が県士会と中央組織を支えている。

共通点 中央組織も県士会も、その双方が法人格をもっている場合が主流。

医師会はやや違う、地域の医師会に入っていることが県医師会、日本医師会への入会の基礎条件になっているので、まず地域の医師会に入らないと日本医師会に所属できないようになっている。

#### 共通点等からいえること

これらの共通点を考えると、私たち言語聴覚士の置かれている位置は大きくずれています。言語聴覚士は県士会と日本言語聴覚士協会という二つの職能団体に属し、その双方に会費を納入するという実態は、他の職種にみられないものだといえます。そのうえ、日本言語聴覚士協会に所属するが、千葉県言語聴覚士会に所属しないことも可能で、その逆の場合だって可能なのです。

大きいなる疑問。中央組織に「法人化のデザインはあるのか?」と聞いてみたい。

他の職能団体は多くは法人化され、会員は中央と地方に同時加入し、組織は一人、年一回納められる一口の会費を中央分、地方分に分けて使っている。では日本言語聴覚士協会は法人化に関して地方と中央の関係をどうしようと考えているのだろうか。「日本言語聴覚士協会ニュース」を注意深く見ているのだが、組織デザインに関する記事は見た記憶がない。地域職能組織代表者会議においても検討された形跡はないし、「日本言語聴覚士協会会則」によれば、「都道府県士会は、新入会員に日本言語聴覚士協会への入会を勧め、また日本言語聴覚士協会は新入会員に居住あるいは勤務する都道府県士会への入会を勧めるように努める」とあるだけだ。

つまり、中央と地方は協力するが、別の組織、法人化は中央だけするよ、ということなのか。そして、我々は二つの組織に加入する優等生的な言語聴覚士と、中央か地方のどちらかにしか加入しない不良言語聴覚士が存在することになるが、それでいいのだろうか。

言語聴覚士の社会的地位の低さを改善しないで、どうするの?

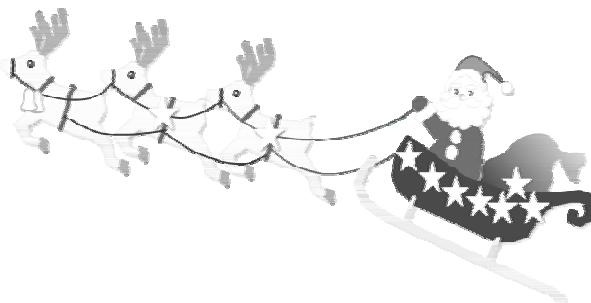
私は昨年、陸上自衛隊の予備自衛官補の試験を受けようとしました。これは災害や他国の武力侵攻があったとき、後方支援にあたる自衛官で、医療職は50歳を過ぎていても受験ができ、合格すると2年間の訓練の後に「補」が外れ、予備自衛官になるのですが、その要綱の医療職の欄に「言語聴覚士」がはいっていないのです。理学療法士や作業療法士は医療職として受験可能となっていますが、言語聴覚士が医療職の一覧のなかに無いのです。担当の人に言語聴覚士も医療職だと説明したが、これは上で決定しているので、ここに無い職種は受験できませんと丁重に断られました。

そして、こんどは県立医療大学(仮称)の話がでてきました。ここにはリハビリテーション学科が出来るのですが、理学療法士と作業療法士のコースしかないじゃありませんか。どこをさがしても「言語聴覚士専攻」という文字は無いのです。

私はこの二つの例からも言語聴覚士の社会的な認知度、信用度は、はなはだ低いと判断せざるを得ません。私たちはまるで医療界の孤児です。本当は、自らの社会的な役割を訴え、その認知度、信用度をあげるのも職能団体のおおきな使命だろうと思いますが、これが疎かになっている。この原稿を読んで読者諸氏はどう思うだろうか。

「井の中の蛙、大海を知らず」という言葉がある。その昔は「専門馬鹿」という言葉もあったが、私は今の日本言語聴覚士協会が、これに近い存在に思えてならない。最近読んだ本に、お役所を「いたずらに旧弊墨守に励む井蛙的醜状が現存」する場所だと批判した個所があつたが、この言葉、実はお役所だけではなく、意外に身近なところにあるものらしい。

組織検討委員会 吉田 浩滋



## 委員会から

### 特別支援教育委員会

#### 言語聴覚士の教育現場での活動

現在、千葉県では特別非常勤講師や巡回センター等（注）で教育現場で働いている言語聴覚士が5名います。特別支援教育委員会では教育現場で働いている言語聴覚士の方々との会合をもち、教育現場での言語聴覚士の役割や課題の洗い出しを行っています。結果については、今後のニュースなどで、お知らせする予定です。

注（）特別非常勤講師…文部科学省の予算で、各学校の申請により、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等が、年間30時間以内、学校現場で、子どもや教員などを指導する制度に基づいた講師。

巡回センター…千葉県の予算で、県内の9箇所の特別支援学校に配属され、週30時間、主に近隣の小中学校に勤務している特別支援教育支援員（注1）を指導する制度に基づいた非常勤職員であり、言語聴覚士、臨床心理士、教員のいずれかの免許が必要である。等……………県市の連携協議会の一員、県の相談機関の相談員としても働いている。

注1）特別支援教育支援員（名称は各市町村により異なる）…各市町村に国の地方交付税や市町村独自の予算で、各学校あるいは、市町村に勤務し各小中学校の特別な教育的ニーズのある子ども達を支援・指導している人。



## 作業部会から

### 生涯学習プログラム基礎講座作業部会

#### 多くの参加者を得た『生涯学習プログラム基礎講座』千葉県版

平成19年度 生涯学習プログラム基礎講座千葉県版が、11月25日（日）・12月9日（日）の2日間、盛況のうちに終了しました。多数の県内の参加者をはじめ、県外の茨城・東京・埼玉・北海道からの参加者があり、2日間で基礎講座全部を履修することのメリットが喜ばれました。部員一同、初めての開催で不安だらけでしたが、講師の先生はじめ皆様のご協力で好評のうちに終えることが出来感謝申し上げます。

## 施設紹介

### 国保旭中央病院 ······ S T 野原 信

国保旭中央病院は、旭市にある病床数956床、診療科34科の総合病院です。主たる診療圏は、県東部及び茨城県鹿島地区を含む東南部の12市8町となっており、地域医療に力を入れていることが病院の特徴の1つといえます。

現在、当院にはS Tが5名おり、リハビリテーション科に3名、小児科に2名が在籍しております。リハビリテーション科S Tでは主に成人の方を対象としており、脳卒中を中心とした言語訓練や摂食嚥下訓練を行っております。一方の小児科S Tは、私が所属している科であることから、今回は、小児科S T部門の紹介をさせていただきます。

小児科での療育スタッフは、医師、心理、S Tで構成され、主に18歳までの小児期のお子さんを対象としております。S Tを利用されているお子さんの主な障害種別は、言語発達遅滞、自閉症、脳性まひ、器質性構音障害、機能性構音障害が挙げられます。また、症例数は多くありませんが、吃音、聴覚障害、摂食嚥下障害のお子さんも利用されています。支援形態は、外来での個別訓練が中心です。その他、障害児やその家族が一緒に通っている近隣のマザーズホームにS Tが訪問し、療育場面に対する直接支援も行っています。

今後は、地域に根ざした活動ができるよう医療機関だけでなく近隣の療育、教育機関との連携をより深めていきたいと考えております。

〒289-2511 旭市イの1326 TEL: 0479-63-8111

### 館山病院 ······ S T 大浦 淳一

館山病院は、房総半島の最南端、館山市にあります。海が近く、海岸からは夕焼けに染まった富士山の美しい姿を眺めることができます。

当院は病床数268床の中規模病院であり、館山市及び南房総市の地域医療の中核を担っています。療法士は、S T 2名、P T 9名、O T 12名が所属しています。

S Tは主にリハビリテーション科の患者様に対する言語聴覚療法を行っていますが、内科病棟や療養病棟でもリハビリテーションを行ない、急性期から慢性期まで幅広く対応しています。また、外来リハビリテーション、介護保険による通所リハビリテーションにも携わっています。

対象となる障害は失語症・構音障害・高次脳機能障害・認知症などですが、最近は誤嚥性肺炎や廃用症候群の患者様に対する嚥下障害のリハビリテーションも数多く行っています。

また、今年度よりN S T（栄養サポートチーム）を発足させ、栄養士や看護師と協力しながら、患者様の栄養状態の向上のお手伝いをしています。

最近の主な関心事は、「臨床実習生に対して、どうような指導方法が良いか」「口腔ケアをもっと効果的に行なうには、どんな道具を選択したら良いか」です。

〒294-0037 館山市長須賀196 TEL: 0470-22-1122



## 臨床こぼれ話

### 走り書き

声の状態（障害の評価）発話内容そのもの、（発話の裏に隠されている）心の声、を聞く　？

養成校時代の教科書の初めに走り書きがあります。言語聴覚士は患者様の声を3つきくと話しておられた恩師のことばを確か記しました。矢印と大きく書かれたクエスチョン・マークは、机上での私の気持ちでしょう。卒業して4年が過ぎようとしています。未だに教科書を見る自分に苦笑しながら、この走り書きを目にします。

以前、勤めていたのは慢性期の病院でした。病がいくつも重なり合い複雑な障害像を呈し、長期療養されている方が多くいらっしゃいました。リハビリは個と個が向きあえる時間です。病棟という日常生活から離れた空間は、社会とのつながりを求める場でもあったと考えます。残されたわずかな意思伝達手段で語ろうとされる方々の声を自らの五感をふる回転させてききとりたい、との想いでした。臨床での私は、教科書の走り書きにクエスチョン・マークをもう2つほど付け加えたい心境でした。発話内容もききとれないのに、まして心なんて……と肩を落とします。患者様の声は推測です。一方向かもしれません、ときどき感じられる本能的な心のつながりみたいなものが支えでした。

「私はあなたの声をききとっていますか」

目をみて、肌に触れて、ときには声に出して患者様に問い合わせることがありました。

急性期から回復期の病院である現職場に勤務して8か月。患者様の障害像が大きく変わりました。発話が多く飛び交います。発話内容に気を取られていると、心の声に気づかないことがあります。

初回面談で開口一番、

「ことばのリハビリと一緒に、心のリハビリもしてほしい」

とおっしゃる患者様に出会いました。声にして心のリハビリを求める方が初めてでしたので、正直なところ、うろたえました。その場をなんとか脱したものの、メモにしたこのことばに悩みます。走り書きの「心の声」が頭をよぎりました。

私は身体が傷ついた。心はもっと傷ついているんだよ、わかって

患者様の心の声は、そう訴えているのでしょうか。

訓練にリラクゼーション、自律訓練法等を入れてみました。「初めて」の体験が患者様に混乱をまねき、緊張を与え、不安にさせていると考えたからです。障害を受け入れようとしている段階であり、気持ちの整理が必要とも思いました。静かな気持ちになってきた、と患者様からきかれたとき、自然と言語機能がよくなってきました。最近、正月は家で迎えられる、と嬉しそうに退院しました。別れ際にくれた私へのメッセージは以下です。

「患者さんはね、みんな傷ついてここ（病院）に来るんだよ。ことばは心でしょ。ことばのリハビリをする人は、きっと心も癒してくれると思ったんだ。君たちは仕事で慣れているかもしれないけど患者さんは初めて。ちゃんと患者さんの声をきいてあげて。それが君の仕事だと僕は思うよ」

教科書の真ん中にある他の走り書きです。

煮ても焼いても食えない5年目　？！

臨床5年目ともなると自信がつき、周りの声に耳をかさなくなる厄介な存在になる、との話であったと記憶します。来年は私も5年目。鼻持ちならない存在にすら成長していない自分を嘆きつつ、初めの走り書きの「きく」を「聴きます」に修正し、「謙虚」という文字を加えました。

千葉中央メディカルセンター リハビリテーション科 古謝典子



## 理事会・委員会報告

### 平成19年度 理事会

#### 第7回

日時：2007年8月26日（土）10：28～12：17 場所：千葉市黒砂公民館 会議室

出席者：宇野、斎藤公人、斎藤敬子、斎藤順子、畠山、山口（以上理事6名）

　　武田（監事）野島（県民公開講座作業部会長）酒井（書記）

#### 1. 協議事項

- (事務局より)・新入会員等承認 ・第6回理事会議事録承認 ・担当理事の役割 ・賛助会員の商品展示
- ・非賛助会員の広告 ・日本ヒアリングインターナショナルより学会の広告依頼
- ・ニュース編集マニュアル再確認 ・県健康福祉部への意見 ・リハビリテーション公開講座次期運営委員人事
- (学術局より)・研修会の年会費・参加費徴収 ・第3回研修会計画 ・第4回研修会計画 ・研修会アンケート
- (リハビリテーション公開講座作業部会より)・次回開催承認 ・第2回概要 ・収支報告
- (県民公開講座作業部会より)・申込経過報告と決算の見通し
- (生涯学習プログラム基礎講座作業部会より)・案内チラシのニュース同封

#### 2. 報告事項

- (事務局より)・到着郵送物等 ・「作業療法体験デー2007」の後援
- (学術局より)・第2回研修会反省 ・第2回議事録
- (特別支援教育委員会より)・教育庁訪問報告
- (編集部、実態調査委員会、新生児スクリーニング検討委員会、特別支援教育委員会、県民公開講座作業部会より)
  - ・議事録
- (リハビリテーション公開講座作業部会より)・反省会議事録 ・アンケート

#### 第8回

日時：2007年10月7日（日）9：27～12：25 場所：千葉市黒砂公民館 会議室

出席者：宇野、斎藤公人、斎藤敬子、笹本、畠山、山口、山本（以上理事7名）竹中（監事）

　　岡田（新生児聴覚スクリーニング検討委員会長）長谷川（特別支援教育委員会）家老（書記）

#### 1. 協議事項

- (事務局より)・新入会員等承認 ・第7回理事会議事録承認 ・担当理事の交代 ・会長の委員会出席
- ・委嘱状の送付範囲、文面 ・ニュースの広告の資格 ・研修会場における商品展示と販売
- ・平成19年度中間決算報告 ・県士会ニュース第25号構成案 ・ホームページ掲載
- (学術局より)・研修会における参加費徴収と保管 ・研修会アンケート
- (社会局より)・ミニタウンミーティング準備
- (新生児聴覚スクリーニング検討委員会より)・実態調査アンケート
- (特別支援教育委員会より)・発達障害のリーフレット
- ・発達障害に関する言語聴覚士協会から文部科学省への提言
- (リハビリテーション公開講座作業部会より)・予算の検討

#### 2. 報告事項

- (事務局より)・到着郵送物等
- (学術局より)・第3回研修会スケジュール
- (県民公開講座作業部会より)・第2回議事録
- (生涯学習プログラム基礎講座作業部会より)・日程 ・第1回議事録
- (リハビリテーション公開講座作業部会より)・第1回議事録
- (特別支援教育委員会より)・第3回議事録、第4回議事録
- (組織検討委員会より)・第2回議事録

## **平成19年度 実態調査委員会**

第2回

日時：2007年10月14日（日）13：00～18：00 場所：高洲コミュニティーセンター 第1サークル室

出席者：新井、勝又、酒井、篠原（以上4名）

・アンケートに関しての検討 ・訪問看護ステーションにおける人員配置の把握

## **平成19年度 特別支援教育委員会**

第3回

日時：2007年8月19日（日）9：45～14：00 場所：千葉大学医学部附属病院 言語訓練室

出席者：和泉澤、古森、高畠、野島、長谷川（以上5名）

・千葉県教育庁教育振興部特別教育課訪問 ・県民公開講座シンポジウム ・特別支援教育体制に関する情報収集

第4回

日時：2007年9月23日（日）10：00～15：15 場所：千葉大学医学部附属病院 言語訓練室

出席者：和泉澤、太田、古森、高畠、野島、長谷川、宮本（以上7名）

・パンフレットの内容検討 ・県民公開講座の反省 ・理事会での提案事項 ・今後の予定確認

## **平成19年度 新生児聴覚スクリーニング検討委員会**

第3回

日時：2007年8月12日（日）10：00～12：00 場所：千葉市療育センター 第3・4会議室

出席者：猪野、岡田、荻洲、佐藤、高橋乃理夫、高橋典子、本宮（以上7名）

・議事録 ・実態調査

第4回

日時：2007年9月9日（日）10：00～12：00 場所：千葉市療育センター 第3・4会議室

出席者：猪野、佐藤、高橋乃理夫、高橋典子（以上4名）

・新生児聴覚スクリーニング検査実態調査の精査機関用アンケート ・新生児聴覚スクリーニング検査実態調査の療育機関用アンケート ・アンケート調査の今後の日程

## **平成19年度 組織検討委員会**

第2回

日時：2007年9月16日（日）9：00～10：45

場所：ロイヤルホスト津田沼店

出席者：番、平山、山本、吉田（以上4名）

・諸団体の組織 ・日本言語聴覚士協会と都道府県士会との関係 ・本会の組織検討

## **平成19年度 県民公開講座作業部会**

第2回

日時：2007年9月2日（日）18：00～20：00 場所：カルフル1階（千葉市中央区中瀬）

出席者：岡田、野島、藤田、遊佐、四方田（以上5名）

・県民公開講座反省 ・次年度の方向

第3回

日時：2007年10月8日（祝）10：25～15：25 千葉県言語聴覚士会事務所

出席者：秋山、岡田、野島、藤田、遊佐、四方田（以上6名）

・次回県民公開講座会場予約 ・第2回議事録 ・平成19年度県民公開講座反省

・平成20年度県民公開講座実施要綱 ・今後の方向

## 平成19年度 生涯学習プログラム基礎講座作業部会

第1回

日時：2007年9月30日（日）9：30～11：15 場所：千葉県言語聴覚士会事務所

出席者：岡松、塘、松本、山口（以上4名）野島（前委員）

・実施要綱、案内状 ・参加者人数と今後の対応 ・スケジュール、役割分担、当日運営 ・事務処理 ・会計

（紙面の都合上、報告事項と協議事項はまとめて記載しています。）

### **【担当理事・委員等の変更のお知らせ】**

以下のとおり、担当理事・委員等に変更がありましたのでお知らせいたします。

- \* リハビリテーション公開講座運営委員：神作暁美氏・斎藤公人氏（前：竜木美恵子氏、野島洋子氏）
- \* 新生児聴覚スクリーニング検討委員会・担当理事：斎藤順子氏（前：斎藤公人氏）
- \* 県民公開講座作業部会・担当理事：斎藤公人氏（前：斎藤敬子氏）

## 事務局から

### **事務局が移転しました**

本年5月より当会の事務所が下記の場所に移転となりました。

住所：〒263-0023 千葉市稻毛区緑町2-1-9 103号室  
(最寄り駅 京成線みどり台駅またはJR総武線西千葉駅)

TEL/FAX：043-243-2524 E-mail：[chibakenshikai@zp.moo.jp](mailto:chibakenshikai@zp.moo.jp)

ホームページ：<http://chibakenshikai.moo.jp/> 会員専用パスワード：affordance

各種申請種類の送付や問い合わせ先になります。お間違えのないようお願いいたします。

### **1. 入会のお誘い**

当会にまだ入会されていない方は、ぜひご入会くださるようお願い申し上げます。入会ご希望の方は、ホームページにても入会方法をご案内申し上げておりますのでご覧ください。また、お近くに未入会の言語聴覚士の方がいらしたら、入会をお勧めくださいますようお願い申し上げます。

### **2. 年会費納入のお願い**

平成20年度分の年会費のお支払いにつきよろしくお願いいたします。年会費の納入はなるべく郵便振替にて行ってくださるようご協力をお願いいたします。年会費は正会員：3,000円、会友：2,000円、賛助会員：1口5,000円、個人1口以上、団体2口以上です。払込先は口座記号00120-6 口座番号39932 千葉県言語聴覚士会です。現金にての受付は総会開催日のみとなっております。

また、平成19年度分の年会費をまだお支払いがない方は、至急お振込みくださいますようお願いいたします。本会の会則により、2年以上会費未納の場合、退会とみなされますのでご注意ください。

### 3. 住所・勤務先変更届けについてのお願い

住所や勤務先など、入会時にされた登録内容に変更があるときは、お手数ですがなるべく速やかに、事務局まで郵便またはFAXにてご報告くださいますようお願いいたします。今号に変更届を同封いたしましたのでご利用ください。変更届は会のホームページよりダウンロードすることもできます。会よりの郵便物がお手元に届くのが遅れるなど不都合がございますので、ご協力をお願いいたします。

### 4. 複数勤務先の届け出のお願い

利用者の方より、近隣で言語聴覚士の評価、訓練を受けられる施設の有無についての問い合わせが時折あります。当会では正会員の所属一覧を備えて対応させて頂いております。しかし、会員の方には複数の施設においてご勤務されている方や、職場より別の施設へ定期的に派遣、出張されている方がいらっしゃると思われます（例えば月1回位の頻度での市町村の言葉の発達相談など）。

利用者の方の利便性を図るために、あくまでも任意ですが、主たる勤務先以外の勤務先についてもお知らせくださいますようお願いいたします。今号に届け出用紙を同封いたしましたので、郵便またはFAXにて事務局宛にご送付くださいますようよろしくお願ひいたします。

### 5. リーフレットの配布

千葉県言語聴覚士会のリーフレットを所属施設に置きたい、研修会などで配布したい等のご希望がありましたら、必要部数と連絡先を明記し、事務局までお申し込みください。追ってご連絡いたします。また県士会ホームページにも掲載されていますので、ご覧ください。

### 6. 新入会員のお知らせ（敬称略）

新入会員のお知らせ（敬称略） **会員数：正会員294名・会友46名・賛助会員6団体+1名**

（平成19年11月11日 理事会承認分まで）

…正会員…

亀井 絵美(千葉市養護教育センター)  
小川 剛史(老人ケアセンター浅井)  
吉田 真樹子(船橋二和病院)  
古謝 典子(千葉中央メディカルセンター)  
金子 真人(帝京平成大学)  
渡邊 義郎(新八千代病院)

目黒 文子(筑波病院)  
石原 優子(筑波記念病院)  
伊藤 純平(埼玉医科大学病院)  
片岡 尚子(石岡市医師会病院)  
深澤 朱美(印西市立木戻小学校)  
松田 まりこ(初台リハビリテーション病院)

編集後記：気忙しい時期になりましたが、街中はもうクリスマス一色です。夜のイルミネーションを見るために、出かけるのも楽しいものですね。童心に返りクリスマスプレゼントを期待している私がここにいます。今年の冬は寒い日が続きますのでくれぐれもお身体をご自愛ください。



#### 事務局

〒263-0023 千葉市稻毛区緑町2-1-9 103号室

TEL/FAX: 043-243-2524

E-mail: chibakenshikai@zp.moo.jp

ホームページ: <http://chibakenshikai.moo.jp/> 会員専用パスワード: affordance

## 求人情報

詳細は千葉県言語聴覚士会ホームページをご覧ください。

(2007年11月26日現在)

### 守谷市こども療育教室

募集：言語聴覚士 非常勤（経験者希望）

内容：発達に何らかの問題を有する乳幼児及び学齢児の言語訓練、相談等

〒302-0101 茨城県守谷市板戸井 1977-2

電話：0297-47-0220 担当：奥岡

### 医療法人沖縄徳洲会 四街道徳洲会病院

募集：言語聴覚士 常勤 1名（経験者希望。新卒も可）

内容：成人（失語症、構音障害、嚥下障害、高次脳機能障害等）

〒284-0032 四街道市吉岡 1830-1

電話：043-214-0111

担当：総務 迫田事務長、リハビリテーション科 P.T.鈴木

### 医療法人 緑友会 らいおんクリニック

募集：言語聴覚士 常勤 1名（非常勤も応相談）

内容：リハビリテーション科クリニック（外来のみ）デイケア、デイサービス、訪問リハビリテーションにおける言語療法。対象は失語症、構音障害、摂食・嚥下障害、高次脳機能障害等

〒272-0133 市川市行徳駅前 4-2-6

電話：047-306-7778

担当：リハビリ統括部長 沼田 仁

### 医療法人沖縄徳洲会 介護老人保健施設

#### 松戸徳洲苑

募集：言語聴覚士 常勤または非常勤 1名

（経験者を希望。新卒者も可）

内容：成人（失語症、構音障害、嚥下障害、高次脳機能障害等）

〒270-0001 松戸市幸田 180-1

電話：047-309-7172（代表）

担当：総務 事務長 石川

### 匝瑳市介護老人保健施設そうさぬくもりの郷

募集：言語聴覚士 常勤 1人

内容：入所者及び通所者、病院患者への言語聴覚訓練他

〒289-2153 匝瑳市中台 305 番地

電話：0479-79-1766 担当：総務班 塚本

### たむら記念病院

募集：言語聴覚士 常勤 1名

〒288-0815 銚子市三崎町 2-2609-1

電話：0479-25-1800（直通） 担当：藤後、大久保

### 社会福祉法人 聖隸福祉事業団

#### 聖隸佐倉市民病院

募集：言語聴覚士 常勤 1名（経験者）

内容：脳血管疾患・嚥下リハビリテーション

佐倉市江原台 2-36-2 電話：043-486-1151

担当：経営事務課 池ノ谷（いけのや） 請川（うけがわ）

### 茂原中央病院

募集：言語聴覚士 常勤 1名

内容：入院・外来診療（回復期から維持期）

〒297-0035 茂原市下永吉 796

電話：0475-24-1191

担当：リハビリテーション科 篠原

### 昭和大学病院 形成外科 言語室

募集：言語聴覚士 非常勤 1名

内容：口唇口蓋裂患者の言語評価及び訓練（主に小児）

〒142-8666 東京都品川区旗の台 1-5-8

電話：03-3784-8566（直通） 担当：木村、佐藤

### 医療法人社団愛友会 ナーシングプラザ流山

募集：言語聴覚士 常勤 1名

内容：介護老人保健施設での機能訓練

〒270-0144 流山市前ヶ崎 248-1

電話：04-7145-0111

担当：事務部 秋谷、リハビリテーション科 後藤

**介護老人保健施設 瞳沢の里**

募集：言語聴覚士 1日／週での非常勤

内容：入所者及び通所者への言語訓練とその他

長生郡瞳沢町大上 1150 番地

電話：0475-43-1222 担当：本間、石上

**医療法人社団誠馨会 セコメディック病院**

募集：言語聴覚士 1名（経験者のみ）

対象：脳血管疾患

〒274-0053 船橋市豊富町 696-1

電話：047-457-9894（総務課直通）

**社会福祉法人恩賜財団 龍ヶ崎済生会病院**

募集：言語聴覚士 常勤 1名

対象：高次脳機能障害、成人失語、発声・発語、摂食・嚥下

下

茨城県龍ヶ崎市中里 1-1 電話：0297-63-7111

担当：総務課 尾形

**医療法人社団 昌医会 葛西循環器脳神経外科病院**

募集：言語聴覚士 常勤 若干名（経験者）

対象：成人の脳血管疾患等による摂食嚥下障害、高次脳機

能障害、構音障害

東京都江戸川区東葛西 6-30-3 電話：03-5696-1611

担当：言語療法室 西畠（にしあた）、小柳津（おやいづ）

**医療法人社団友愛会 八千代リハビリテーション病院**

募集：言語聴覚士 常勤 3名程度

対象：成人失語症、構音障害、高次脳機能障害、嚥下障害

八千代市八千代台北 6-7-3 電話：047-483-1555

担当：リハ部 野村

**医療法人社団心和会 新八千代病院**

募集：言語聴覚士 常勤(できれば経験者を望む)

対象：成人失語症、構音障害、高次脳機能障害、嚥下障害

八千代市米本 2167 電話：047-488-3251

担当：事務長 河津、リハビリテーション科 藤田